

Final adult height in kidney recipients who underwent highly successful transplantation as children: a single-center experience

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤井, 寛 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30343

主論文の要旨

Final adult height in kidney recipients who underwent highly successful transplantation as children: a single-center experience

(術後経過が良好であった小児腎移植患者の最終身長：単一施設における経験)

東京女子医科大学第四内科学

(主任：新田孝作教授)

腎臓小児科 (指導：服部元史教授)

藤井 寛

Clinical and Experimental Nephrology

Published on line (July 2013) DOI 10.1007/s10157-013-0842-4

【要 旨】

背景：小児腎移植の分野において最終身長の正常化は、目標とすべき課題である。今回我々は、正常な最終身長に到達する最適な方法を調査するために後方視的に小児腎移植患者の成長および最終身長の検討をおこなった。

方法：小児腎移植後の最終身長に影響を及ぼす要因は、多岐にわたり複雑であるため、今回我々は、持続的に移植腎機能が良好であり、最終身長に到達するまでにステロイドの最小化を達成できた 13 症例を選択した。

結果：13 症例の eGFR は、 72.1 ± 15.3 ml/min/1.73m² でステロイドの平均隔日投与量は、最終身長到達時に 0.05 ± 0.05 mg/kg であった。経過良好にもかかわらず、4 例 (30.8%：思春期前移植例が 1 例、思春期移植例が 3 例) が、移植から最終身長到達までに身長 SD スコアの低下を認めた。さらに 4 例のうち 2 例 (男児) は、最終身長が SD <-2 であった。

結論：経過良好にもかかわらず、最終身長は最適とは言い難かった。良好な移植腎機能の保持やステロイドの最小化だけでなく、更なる治療として、ステロイドアボイダンスや早期ステロイド離脱、rhGH 療法などが、一部の症例において正常な最終身長を目指すのに必要と考えられた。